資料（３）

生物多様性保全に対する取り組みについて

本市では様々な生物多様性の保全を図るための施策を展開しております。この度は川口市独自の施策として、その主なものをご報告させていただきます。

■はじめに、生物多様性とは・・・



■夜のいきもの観察会

小学生と保護者を対象に、普段は入ることのできない閉園後の夜のイイナパーク川口やグリーンセンター、見沼自然の家において、生き物に詳しい講師と、園内に設置したライトトラップやバナナトラップに集まる昆虫との触れ合いを通じ、夜のいきもの観察会を行っています。子供たちはいつもと違う夏の夜の観察に、夜の昆虫たちを目の前に、ワクワク、ドキドキが止まらず、大変好評です。

幼少のころから身近な生きものたちと触れ合うことで、生きものへの興味や関心を持ち、命の大切さや尊さなどを学ぶことで、将来に渡り生物多様性の保全につなげていくものであります。

＜令和８年度＞
イイナパーク川口　３回、（各３０組）
グリーンセンター　１回、（各６０組）
見沼自然の家　　１回、（各４０組）　　合計１９０組
※合計１９０組募集定員に対し、４０３組（2.1 倍）の応募となっている。





■川口いきもの探検隊

見沼田んぼに位置する「見沼自然の家」周辺において、生きものに詳しい講師とともに、親子で昆虫や植物などの自然観察を年 6 回シリーズで行い、その季節ごとの自然・生き物の様子を観察することができます。毎年度、小学生と保護者 20 組を募集しておりますが、例年定員を超える応募があり、令和 8 年度の応募者数は 48 組(2.4 倍)となっており大変好評となっております。次世代を担う小学生に対し周知啓発することで、未来の生物多様性保全を図っております。





■「川口いきもの通信」の発行

自然保護団体の活動の様子など生物多様性の保全に関する記事を掲載した広報誌を（カラーA4 両面刷 1 枚）を年 3 回（7・11・2 月）作成し、市内全５２の小学校１～６年生の全児童へ配布、また、市内公共施設や、支所、公民館、図書館など各所へ配布し（34,000 部× 3 回＝102,000 部）生物多様性の保全を周知しております。これまで第 21 号まで発行。主に、次世代を担う小学生に対し周知啓発することで、未来の生物多様性保全を図っている。



■特定外来生物クビアカツヤカミキリの防除について

＜特徴＞

クビアカツヤカミキリは、特定外来生物に指定されており、飼育や運搬は原則禁止されている。成虫の体長は２～４ｃｍ程度で、名前のとおり首が赤いカミキリムシである。主に６～８月にかけて飛来活動する。元々は輸入木材に混じり海外から国内に侵入したもので、全国各地で確認されている。一頭のメスから1,000 個近くの卵を産卵するため、繁殖・拡散力が非常に強く、サクラ、モモ、ウメなどの樹木に産卵し、幼虫が樹木内を２～３年かけて侵食し、樹木を枯死させる被害が各地で報告されている。

＜見つけたら＞

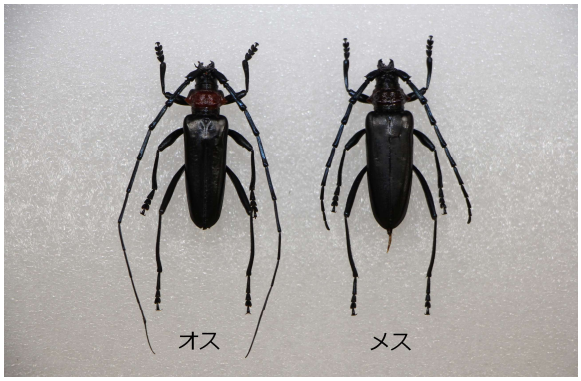
成虫を見つけたら踏みつぶすなどして、すぐに捕殺してもらいたい。また、サクラの木などのフラス（かりんとう状の木くず）を発見した場合も、同様に自然保護対策課までご連絡をいただきたい。

＜市内の状況＞

川口市内でのクビアカツヤカミキリは令和６年度に初めて成虫２頭（安行・神根）が発見された。令和７年度は成虫５頭と、幼虫がサクラの樹木を食した際に出るフラス（かりんとう状の木くず）被害がサクラの木３１本で発生している。（安行・神根・鳩ケ谷）

＜これまでの対応＞

自然保護対策課のホームページ内において市民へ広く注意喚起すると同時に、行政内部においても、各部署へ情報提供を呼び掛けている。また、取り急ぎ、サクラの樹木が多く、影響が大きいと考えられる、市内全小・中学校へ現地調査による緊急点検を実施し、発見次第すぐに薬剤注入等の処置を実施することで、被害拡大防止を図っている。



（成体）



（幼虫が出したフラス）